

## 指導に当たって

指導の際には、個別の教育支援計画、個別の指導計画を活用します。

各教科の目標や内容は、学習指導要領に系統的に示され、指導の根拠が明確です。しかし、自立活動の指導は、それぞれの実態に応じて指導目標や内容が設定されます。そのため、なぜそのような指導が必要か、どのような計画で行うかなどを個別の指導計画の中で明確に示す必要があります。さらに、通級による指導を受ける本人や保護者に対して、面談のときには、個別の指導計画を提示しながら、指導目標や指導内容について説明することも大切になります。

## 個別の教育支援計画・個別の指導計画

個別の教育支援計画とは、教育、医療、福祉、労働等の関係機関が連携・協力を図り、障害のある児童生徒の生涯にわたる継続的な支援体制を整え、それぞれの年代における児童生徒の望ましい成長を促すため、教育機関が中心となって作成するものです。

個別の指導計画とは、個々の児童生徒の実態に応じて適切な指導を行うために学校で作成されるものです。個別の指導計画は教育課程を具体化し、障害のある児童生徒に一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するものです。

## コラム⑥ 《個別の教育支援計画等の作成と活用》

個別の教育支援計画を保護者と共に作成する際には、本人や保護者の願いを理解することが大切です。“order”でなく“needs”を引き出すために、その子の発達過程の見通しを伝えることが必要だと考えます。今できることをそれぞれの立場で考え、その願いを実現できるようにスモールステップでの取組を心がけていきましょう。また、個別の指導計画には本人や保護者だけでなく通常の学級担任の願いも反映させて、通常の学級での適応力を向上させていきたいものです。



ほとんどの時間を通常の学級で過ごしていることから、実態把握に当たっては通常の学級担任との連携が不可欠です。普段からの情報交換・共有が通級でのよりよい指導につながり、通常の学級での子どもの活動に活かされていきます。さらに、節目ごとのミーティングを各校の年間計画に加えることで、指導目標や指導内容等がよりよいものになり、共通理解も深まります。

通級による指導の時間は、実態に合わせた個別の指導を受けることができる貴重な時間です。アセスメントに基づいた学習計画表を作り、指導の記録を残しておくことがよりよい個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成につながります。



## 指導要録への記入について

通級による指導を受けている児童生徒については、成長の状況を総合的に捉えるため、指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に、「通級による指導」を受ける学校名、「通級による指導」の授業時数、指導期間、必要に応じて指導内容や指導の成果等を記入します。なお、指導要録の記入については、在籍している通常の学級担任が通級担当教員が作成する指導の記録に基づいて行い、他の学校において「通級による指導」を受けている場合には、当該学校から通知された指導の記録に基づき記入します。

奈良県立教育研究所 発行  
『特別支援学級及び通級指導教室教育課程ハンドブック』より抜粋

## 1-2 通級担当教員の役割

通級担当教員は、通級が設置された学校の教職員が担当し、校長のリーダーシップの下、校内の教育支援体制の整備に当たって、専門的な見地から助言を行います。

通級による指導を受けている児童生徒に対する指導の実施のほか、校内委員会に参加したり、通常の学級を巡回したりして、通級による指導を受ける必要のある児童生徒に対して、早期からの支援につなげる役割があります。また、指導に当たっては、児童生徒が在籍する通常の学級担任と随時、学習の進捗状況等について情報交換を行うとともに、児童生徒に対して作成される個別の指導計画に通級による指導における指導内容等も記載して、ひいては通級による指導における効果が通常の学級においても波及することを目指します。

そのため、通級担当教員は、通常の学級担任に対して特別支援教育に関する助言を行うとともに、通常の学級の集団指導の場面において、直接、児童生徒を支援する場合があります。

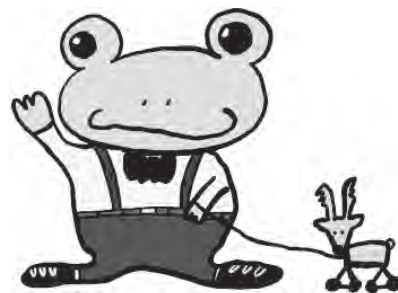
また、通常の学級担任や保護者から相談されたときは、分かりやすく説明していくことが望まれ、特別支援教育コーディネーターと連携して専門機関の情報を提供することも考えられます。自校通級、他校通級、巡回指導と通級による指導には様々な形態がありますが、いずれの場合においても通級はセンター的機能を発揮して通常の学級の支援を担う重要な役割があります。

### コラム⑦ 《大切な役割》

子どもにとって“困っていることを相談できて、自分に合った方法を一緒に考えてくれる。そして、それを学級でできるように応援してくれる”存在でありたいと思い、日々よりよい指導・支援を目指して奮闘しています。「通級の先生」は、うまくいかないことがあって困っている子どもたちや保護者にとって、無くてはならない存在です。また、通常の学級担任や特別支援教育コーディネーターの先生方にとっては、気になる子どもについて気軽に相談できる存在でなければなりません。通級を必要とする子どもだけでなく、特別な支援を必要とする子どもも見逃さず、適切な支援につなげていくことも通級担当教員の大切な役割です。

### コラム⑧ 《通級担当教員になるには》

通級担当教員ってどんな教員なのでしょうか。何か特別な資格を持っているのでしょうか。実は、特に必要な資格はありません。やりがいのある通級による指導を担当したいと考えているのなら、教育研究所をはじめいろいろなところで開催されている研修会に参加することをお勧めします。そして、勤務している学校に通級指導教室が設置された場合や通級指導教室がある学校に転勤したときに、担当を希望してみてください。



### 1-3 連携の大切さ

通級による指導を進めるに当たっては、在籍校や通常の学級担任、保護者、関係機関との連携が欠かせません。

#### 特別支援教育コーディネーターとの連携

校内における教育支援体制の状況把握に努めましょう。共に通常の学級担任をサポートする立場にあるので、常に気軽に相談し、協力し合う関係を作っておくことが大切です。その際、学校内の支援等を効果的に行うため、特別支援教育コーディネーターとの役割分担を明確にします。

また、他校通級や巡回指導において、他校の児童生徒を指導している場合は、その学校の特別支援教育コーディネーターとの連携を図ったり校内委員会に協力したりすることも望まれます。

#### コラム⑨ 《特別支援教育コーディネーターとの連携》

校内の特別支援教育の要は、校長が指名する特別支援教育コーディネーターであり、通級担当教員にとっては連携のキーパーソンでもあります。特別支援教育コーディネーターとの会話には、指導や支援に係わる重要な情報が含まれています。特別支援教育コーディネーターとの連携なくしては、通級担当教員は全くの無力であり、何をやっても独り相撲です。連携はフォーマルな場だけでなく、インフォーマルの場でも大切です。職員室の席を隣にしてもらい、職員室から教室に行くときに話しながら一緒に行くなど、積極的に雑談をする機会を作っていきましょう。素晴らしいひらめきは、雑談の中から生まれるものです。

特別支援教育  
コーディネーター



嫌なことがあると、飛び出したり隠れたりする子どもがいるので、1年生の担任が困っています。ケース会議で支援について助言をください。

通級担当教員



分かりました。ケース会議の前に、1年生の様子を見に行きます。



特別支援教育  
コーディネーター



校内委員会で、通級による指導が必要ではないかという支援の方向性が出ています。保護者も望んでおられます。

通級担当教員



対象となる子どもやその保護者、担任の先生と懇談をもちましょう。教育相談の日程調整をしてください。

#### コラム⑩ 《通級とは・・・》

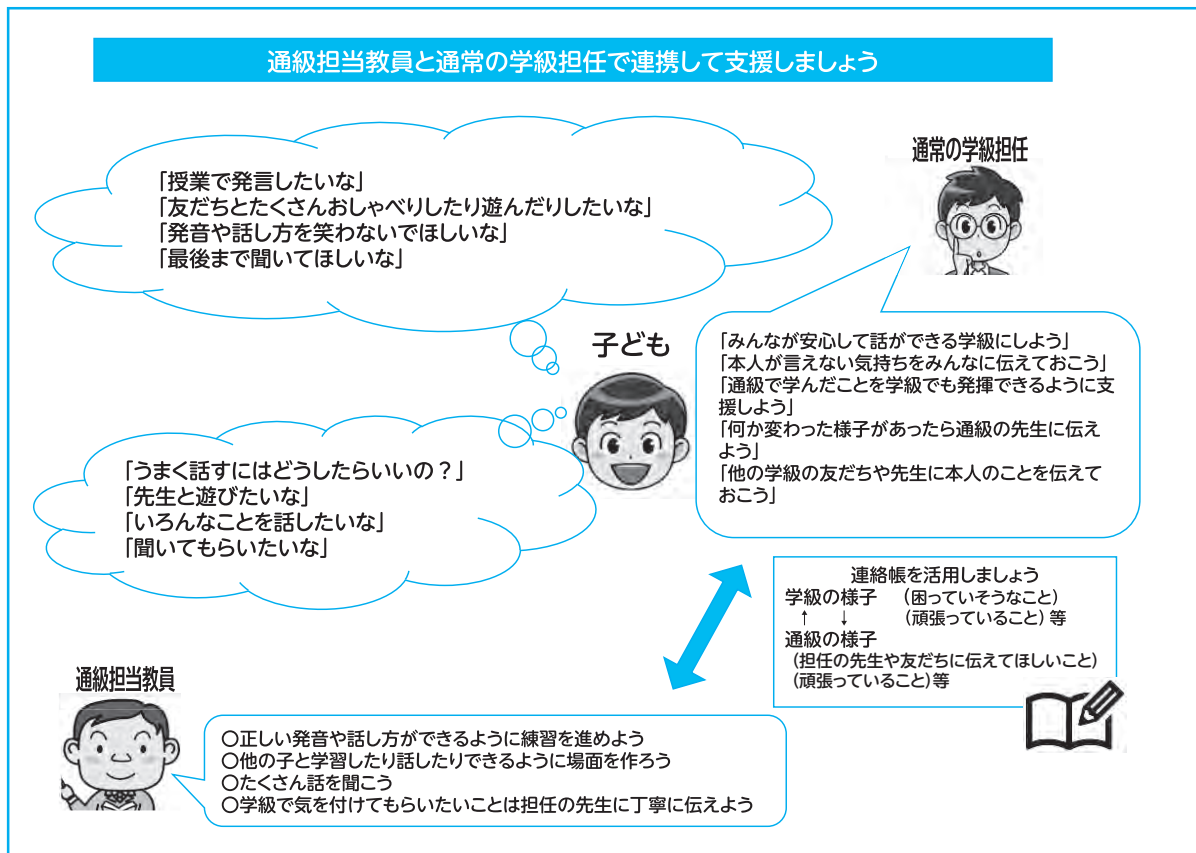
通級は、指導・支援を行う教室としてだけでなく、心の安定を図る居場所としての役割も大切です。「通級のおかげで、楽しい思い出がたくさんできて、今までの苦しみが全て消えてなくなった」と言う子どももいます。また、「僕と同じように困っている子を助けてあげて欲しい」と、友だちを連れて来ることもありました。こうして支援の輪が広がり、どの子どもにとっても身近に感じられる教室になればと思っています。



## 通常の学級担任との連携

通級担当教員は通常の学級には教育上特別の支援を必要とする児童生徒等がいることを常に想定し、児童生徒等のつまずきの発見に努めるとともに行動の背景を正しく理解するようにします。

通級担当教員と通常の学級担任の連携においては、定期的な来室面談の他、巡回相談や電話やメール、連絡帳などを活用する方法も考えられます。



### コラム⑪ 《学級づくりが要》

通常の学級担任との連携で大切なことは、通級による指導開始が到達点ではなく、「学級担任」としての新たな出発点であるという認識をもってもらえるように学校全体に理解を広げていくことです。通級による指導はあくまで個人、または小集団への介入でしかありません。通級で学んだことを活かせるのは通常の学級です。通級に通う子どもが学びを活かそうとしても、それらを発揮しにくい学級では元も子もありません。子どもが学級への所属感をもち、安心して過ごせる学級づくりが最大の支援です。その支援ができるのは「学級担任」だけです。子どもたちがお互いを理解し合う学級となるように継続的な連携をしていきます。

### コラム⑫ 《通常の学級で活かすために》

週1時間や2週間に一度、月に一度などの通級による指導だけで大きな効果を求めるのは難しく、通常の学級担任との連携は不可欠です。通級で指導中の課題や成果をその日のうちに伝え、次回までの間、通級での取組を参考にした指導を通常の学級で継続できるようにしています。また、事前に通常の学級担任から成果や課題について情報を得て、次の通級による指導を効果的に行うための参考にしています。



## 保護者との連携

面談や連絡帳等で児童生徒の様子を知らせ、協力関係を築いていきます。同時に保護者の支援も大切です。保護者の声にも耳を傾け、助言や支援をしていきます。通級の保護者会やペアレントトレーニングを実施しているところもあります。

### コラム⑬ 《保護者の声》

「子どもが学校生活で困っていることに気付きながら、どこに相談すればよいのかが分からず、親として子どもへの接し方にも困っていました。通級による指導を受けるようになり、毎回指導内容を知らせてもらうことで、子どもと目標を共有し、家庭でできることを話し合っています。子どもに分かりやすい提示の仕方や、ちょっとしたアイデアを教えていただくことで親子関係もよくなってきたように感じます。何よりも子ども自身の自尊心が高まり、自分の苦手な事への対処法も分かってきたようで、学級でのトラブルが少なくなったことがうれしいです。」と保護者から懇談で聞かせていただきました。通級担当教員としても保護者の思いに寄り添えることができたと感じました。

#### 保護者



家でもランプなど複数で行うゲームには参加しようとしなかったのが、最近は自分から誘ってくるようになってきたんです。

#### 通級担当教員



それはうれしいことですね。



### コラム⑭ 《子どもの思いに寄り添えるように》

読み書きが苦手なディスレクシアの子どもたちは、字を読んだり書いたりすることが全くできないわけではありません。文字が揺れたりぼやけたりすることがあったり、1個1個思い出すのにすごく努力を要するので逐次読みになったり、文節の切り方が分からずに読み方がたどたどしくなったりする場合があります。また、文字を書くときに鏡文字になったりマス目に収めて書いたりすることが難しい場合もあるのです。

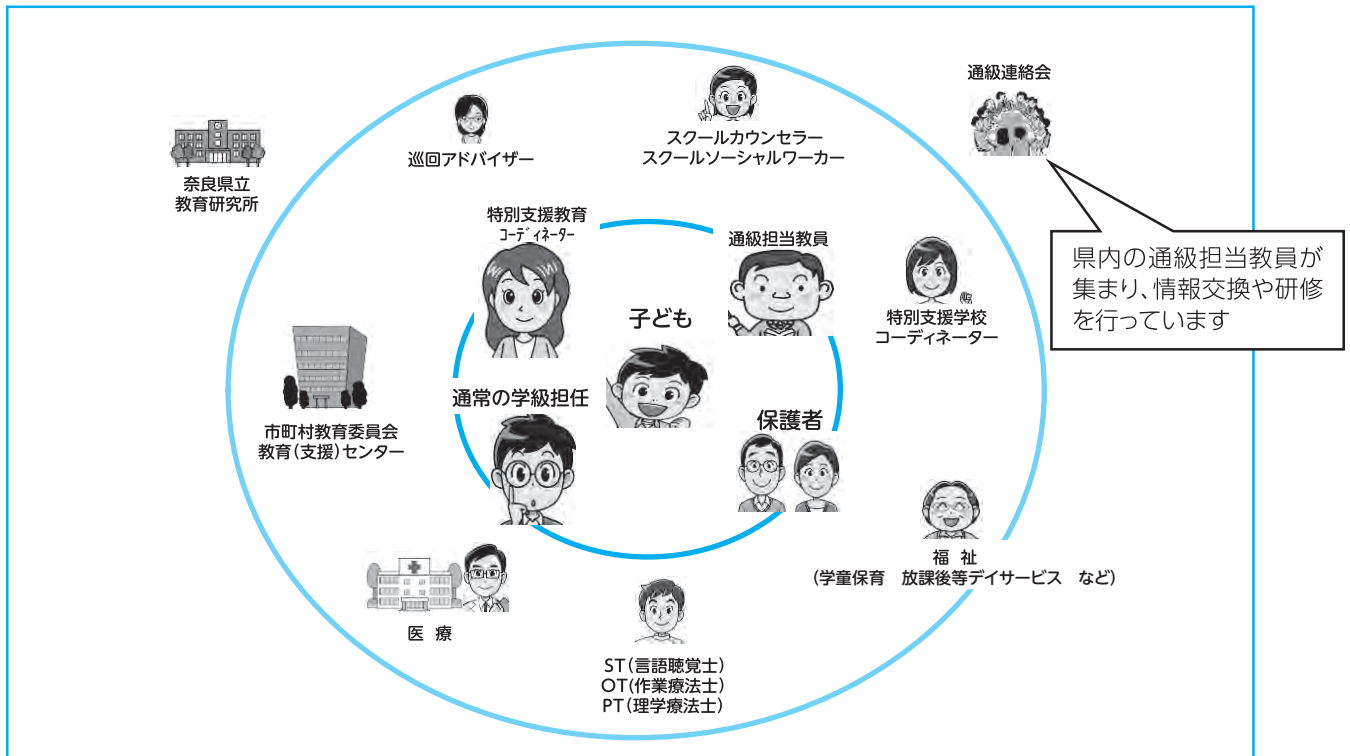
周りからは「努力不足、勉強不足」と思われ、読むのが苦手だと「もっと音読の練習をしなさい」、書くのが苦手なら「もっと書いて練習しなさい」と更に努力を求められることもあります。練習しても、努力では追いつかなくて不安に思い、自己肯定感が下がってしまうのです。

子どもが困っていることに早く気付いて、その子どもに合わせた学習を積み上げていくことで達成感を味わわせ、子どもが自信をもち、主体的に学習できるように指導していくことが大切です。



## 関係機関との連携

児童生徒に対して通級による指導を始めるときには、その必要性を校内委員会等で検討するとともに専門家チームや巡回相談を利用することも考えられます。また、個別の教育支援計画・個別の指導計画を基に指導することになるので、アセスメントやケース会議のときには関係機関との連携が必要になってきます。通級の種別、対象児童生徒の特性や状態によっても連携する機関は変わってきますが、市町村の教育委員会や教育(支援)センター、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの他、医療との連携も考えられます。



### コラム⑮ 《関係機関との連携》

通級による指導では、通常の学級担任や保護者との連携はもちろんのこと、医療機関や市町村の教育委員会、福祉、教育研究所等と連携を図ることも重要です。

医療機関を受診する際に、通級で行ったアセスメントの結果を伝えたり、通常の学級や通級での子どもの様子や指導内容を伝えたりして情報を共有します。

また、ケースによりメンバーは異なりますが、通級担当教員・特別支援教育コーディネーターが主体となり、特別支援学校の教員・特別支援教育巡回アドバイザー・作業療法士等・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーなどと連携し、巡回相談やケース会議を行います。様々な機関と連携を図ることで、それぞれの立場から意見を出し合い必要な支援について考えることができ、子どもたちを多方面から支えていくことができます。



### コラム⑯ 《通級の一年》

通級の一年間の流れをみてみましょう。4月には、教育課程や通級による指導の報告書を市町村の教育委員会に提出します。また、保護者への一斉説明会、担任連絡会も行います。5月から7月にかけて開かれる教育支援委員会(就学指導委員会)では通級による指導の報告を行います。担任連絡会は夏休みに行くこともあります。通級の保護者会を組織しているところでは、夏休みに日帰りキャンプを行ったり、通級担当教員と連携して宿題の支援を行ったりするところもあります。

2学期になると、次年度の通級指導の計画書を市町村の教育委員会に提出します。二期制のところは、前期同様、後期の手続きを行うことになります。

3学期には、市町村の教育委員会へ今年度の通級指導実施報告書の提出、指導要録の記載について通常の学級担任に連絡します。保護者との情報交換、情報共有の方法として、他校通級の場合は、指導日を利用して面談を行います。自校通級では保護者が引率しないため、年に3回程度の面談日を設けるか、連絡帳を活用することが有効でしょう。

## 1-4 通級を設置するに当たって(準備すること)

通級指導教室を設置するとき、市町村の教育委員会と設置校校長との連絡・連携が必要です。

市町村の教育委員会や設置校は、通級による指導の必要性や将来性などを検討した上で、十分連携を図りながら開設に向けて、意志決定を行うことが大切です。



### 市町村の教育委員会として留意すること

市町村の教育委員会において通級を設置する場合、「通級指導教室の設置要綱」等を作成し、通級担当教員がどのような職務を担当するのか、通級による指導の始まりや終わりの手続き及び提出書類等を決めておく必要があります。

どのように進めていくかは市町村の教育委員会の裁量によりますが、次のようなことが考えられます。

- (1) 市町村の教育委員会を対象とする児童生徒の実態調査を行う(県教育委員会と十分な連携を図る)
- (2) 開設に当たっての必要性や将来性について検討する
- (3) 市町村の教育委員会としての意思決定を行い、開設の諸準備を進める(就学相談及び指導内容に関して、施設・設備に関して、開設する学校の受け入れ準備に関して、初年度予算に関して等)
- (4) 開設までの諸準備を行う(必要な予算計上、対象とする児童生徒の実態把握の継続及び保護者との連携)

### コラム⑰ 《立ち上げについて》

市町村の教育委員会・校長先生と共に、“通級指導教室推進プラン”として3か年計画を立てました。学校の先生や特別支援教育コーディネーターへの啓発のための研修も段階を追って進めたことで、正しい理解につながったように思います。教室運営も長期目標と短期目標がはっきりしていたことで課題修正が明確になりました。その後も、市町村の教育委員会の指導主事の先生方やスクールカウンセラーの先生方との連携会議も企画してもらうことができました。一人で悩まず、定期的に相談できる場があることで、安心して取組を進めることができました。

- 通級による指導の開始に当たっては、在籍校校長の権限において特別な教育課程を編成して始まります。
- 通級による指導終了の判断についても開始の時と同様に在籍校校長が行いますが、本人や保護者の願いを踏まえて、通級や市町村の教育委員会等と十分連携して行うことが望まれます。
- \*通級設置の流れや、通級開始や終了の手続きについては市町村によって違うことがあります。文部科学省編著『障害に応じた通級による指導の手引』なども参考にしてください。

### 設置校として配慮すること

新たに通級による指導が実施される場合、より効果的な指導を行うためには、以下の点に配慮する必要があります。

- (1) 校内の共通理解・教育支援体制づくり

通級による指導の概略とその役割、教育課程の位置付け、学校全体での教育支援体制や教育相談システムの構築など、全教職員が共通理解をすることが不可欠です。

- (2) 教室の場所

教室は、過敏さがある、人目を気にするなどの児童生徒に配慮し、落ち着いて学習に取り組める場所に設定する必要があります。また保護者が送迎する場合も考えて、出入り口の位置の工夫や特別の出入り口を設けることも大切です。

- (3) 担当者の職務等に関すること

個人情報取扱等への留意、通級担当教員の校務分掌や会議・行事の参加への配慮が必要となります。